

2年 わくわく大きくせん

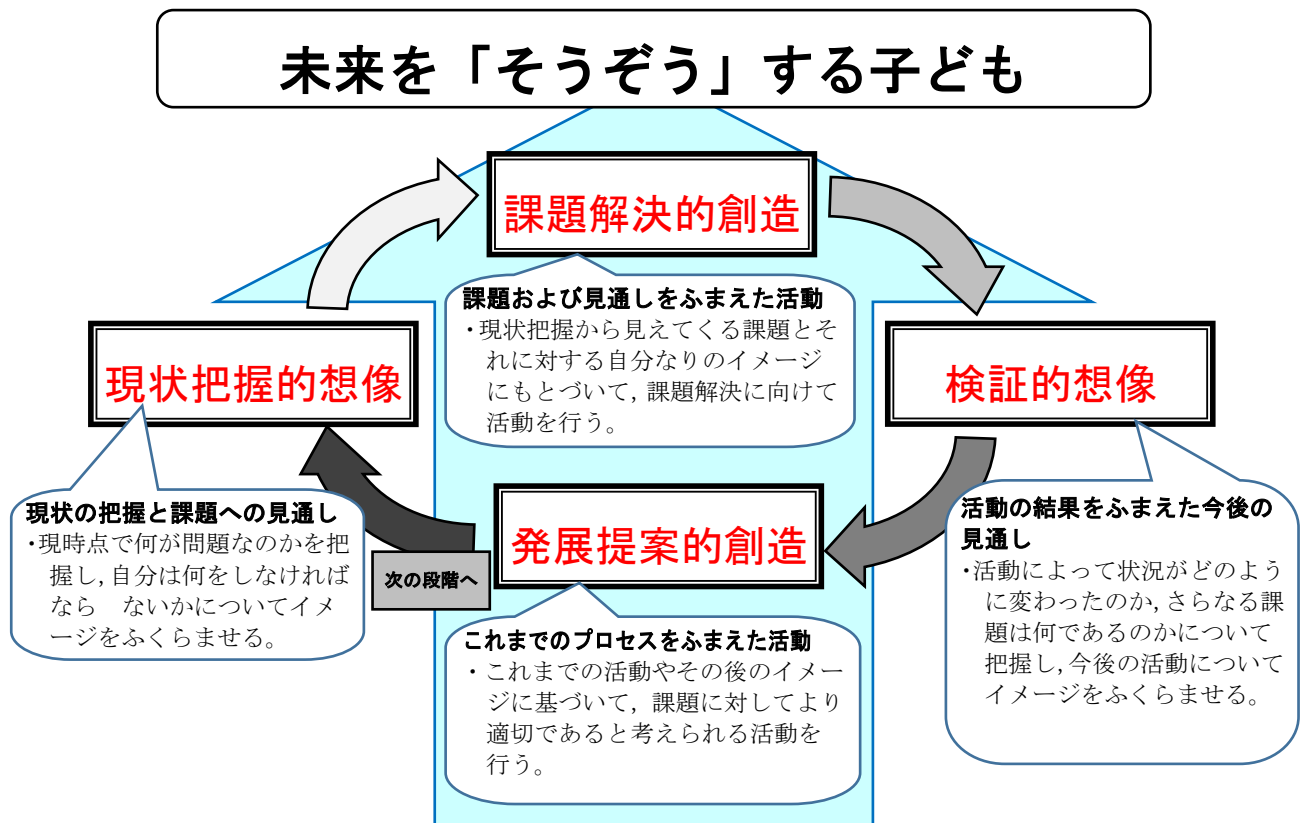


未来そうぞうの素地としての造形活動



未来そうぞう科における学びのプロセス

本研究においては、「想像」と「創造」を繰り返しながら、「未来を『そうぞう』する子ども」を育成するために、未来そうぞう科において、以下の学びのプロセスを推進しています。



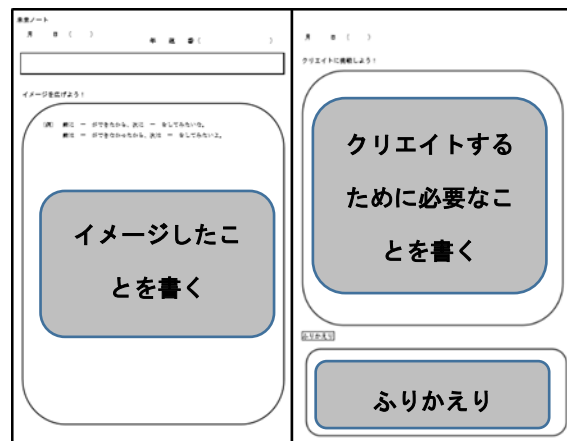
未来ノートについて

本校では、朝のモジュール時間を使って、未来ノートを実施しています。これは、未来そうぞうの学習が継続的に実施されるように未来ノートを書き、次の自分への活動を推進しています。

(1) 未来ノートの役割

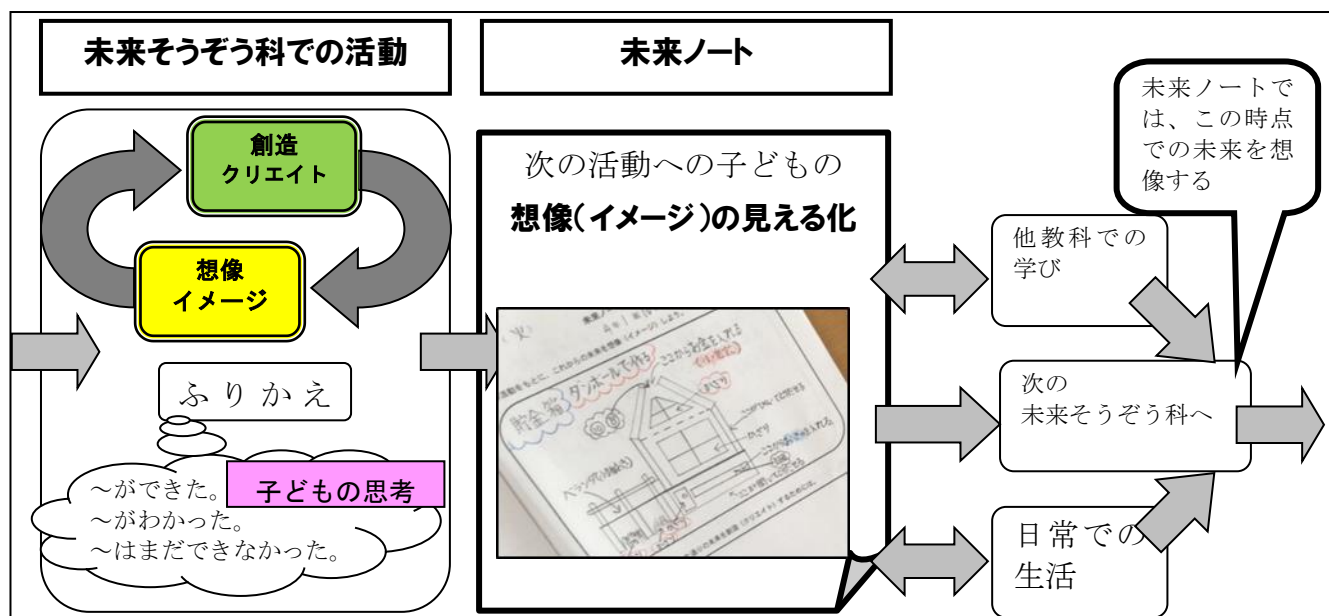
子どもたちは前回の未来そうぞう科での活動やふりかえりをもとに、主にモジュールの時間を使って未来ノートを書く活動を行います。

未来そうぞう科では、イメージとクリエイトの往還を繰り返す活動が行われます。そして、活動の終わりにふりかえりを行います。子どもの思考や活動から、「〇〇ができた。」や「△△は、まだできなかった。休み時間に調べてみようかな。」「次には、◇◇がしてみたい。国語の発表の仕方を思い出してみたらできないかな。」という姿へと変容がみられます。



この取り組みは、未来そうぞう科の授業から次の未来そうぞう科の授業へ、または他教科および休み時間や日常生活から未来そうぞう科の授業へとつなぐ橋渡しの活動であり、子どもの活動を継続的に繋ぎ、学びの流れを止めず推進することができるようになるものと考えています。

(2) 未来そうぞうと未来ノートの接続及び、他教科との関連



未来ノートを活用した活動のサイクル

未来そうそう科 主に集団や人間関係に関する内容 2年【学校だいすき】 ～わくわく大きくせん～

2年生の年間を通したテーマは「学校だいすき」です。1年生への学校案内をきっかけに、学校をよりよいところにして、みんなにもっと学校を好きになってもらおうとする取り組みです。その取り組みの一つとして「学校わくわく大きくせん」を実施してきました。「学校の中をもっと楽しい場所にしよう。」「学校に来たくなるような楽しいイベントを開催しよう。」という願いのもと、チームで協力してその実現に向けて取り組む活動内容です。校外学習で、わくわくする場所について調べた後、学校で実現可能なものは何かを考え、それを実践してきました。その中で、対象の相手を何年生の子どもと自分たちで焦点化し、より相手を意識した取り組みを考えることができました。また、チームでの活動を主としているので、コミュニケーションによる役割分担や企画内容の集約等、人間関係形成に関わる学びも展開されていきました。わくわくしてほしい相手のことを意識しながらも、チームの仲間と協働的に活動することを重視した内容となりました。



各教科・領域における「未来そうそう」

3つの実践力と各教科・領域において焦点を当てる資質・能力

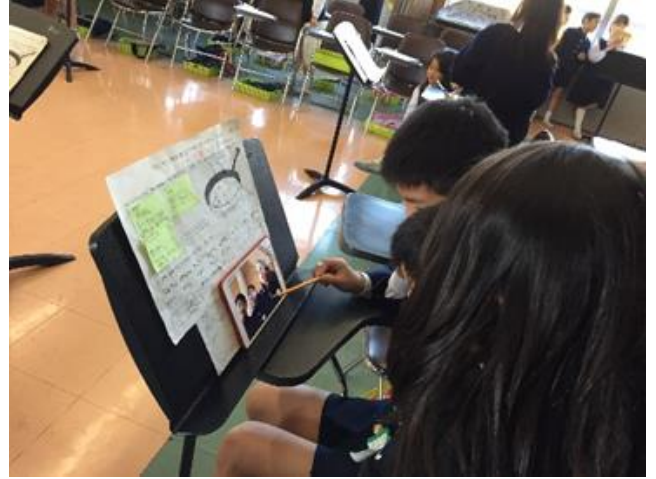
新教科「未来そうそう科」においては、育成すべき資質・能力として「主体的実践力」「協働的実践力」「創造的実践力」の3つを挙げています。その中で各教科・領域においても育てたいける資質や能力を9つに細分化しました。それが右の図です。

これらの資質・能力を各教科・領域においても育成していくこととし、「未来そうそう科」との関連をはかる。これにより「未来そうそう科」との関連をはかります。これにより「未来そうそう科」を軸として、すべての教科・領域で未来を「そうそう」する子どもの育成にアプローチすることができると考えました。以下の表には今年度の各教科・領域において研究上で焦点を当てる資質・能力を示しますが、空白部分の資質・能力についても各教科・領域全体の学びを通して、育成するものとしします。



	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭科	体育	道徳	外国語
主体的実践力	現状把握力	○	○	○	○		○	○		
	論理的思考力	○		○	○		○			
	持続的行動力		○	○		○				○
主体性										
協働的実践力	洞察力		○	○	○	○	○			
	コミュニケーション力	○	○	○		○		○		○
	適応力		○	○		○		○		○
協働性										
創造的実践力	発想力		○			○	○			
	表現力	○	○	○	○	○				○
	活用力	○	○	○	○	○		○		
創造性										

研究テーマのもと、3年生では「リズムパターンを意識して《まめがら》を歌おう」の学習を行いました。豆や鍋の様子をイメージして歌で伝えるという共通の目的をもち、共有ツールであるふせんを用いて一人ひとりの考えをグループに持ち寄り、グループで歌の工夫を考えました。その際、「豆がころがって行って、家の外へ出て行ってたんけんしている様子」や「おなべがどのおなべに入ればいいのかまよってる」というように異なるイメージを持った子どもたちがグループで伝えるイメージを考える活動の中で自分にはなかった考えや感じ方と出会い、イメージを深め、鍋を半分に分けて違う様子を表そうと意見を出し、別々のイメージを伝えるために速度を変化させようと歌い方の工夫へつなげる姿が見られました。また、2つのリズムパターンを比較聴取した際、自分の感受した内容を言葉や絵にセリフをつける姿、そこから歌い方の工夫を発想する姿が見られ、「発想力」を中心とした「創造的実践力」が見られました。



図画工作科では、『未来そうぞうの素地としての造形活動』を研究テーマとして取り組んでいます。私たちが未来をそうぞうするとき、必ず他者の存在が必要不可欠です。その点から今年度はまず、「他者意識をきっかけに学習に取り組む題材」を設定しました。

2年生が校内の研究授業で行った「ようこそ！ひかりのレストラン！」は、「ペットボトルに入ったクラゲに、透明容器と油性ペン・光を使っておいしそうなお飯(*1)をつくってあげる」というものでした。クラゲ(*2)は4年生が学習でつくったもので、さらに導入で4年生から「ぼくたちのつくったクラゲ、みんなで見てね！」というビデオメッセージも使いました。自分たちの知っている4年生がつくったものだと知るだけで、活動に対する意欲が増し、クラゲを見たい（鑑賞したい）という思いも生まれ、さらに見たことから思いついた色のお飯をつくる子どもたちもいました。また、やってみたことからさらに思いついたり、うまくいかなかったことから改良したり、友だちのやっていることを取り入れてみたり、目の前のことから『そうぞう』している姿が見て取れました。



(*1)カラフルなクラゲのためにカラフルに！ (*2)ゆらゆらクラゲ by 4年生

道徳科では、研究テーマを「問題解決的な道徳の授業づくり ～『未来そうそう科』を核に据えた道徳授業の在り方～」として授業研究に取り組んでいます。本校の未来そうそう科では、想像をもって創造に至る研究を進めており、想像することにより、よりよい姿への見通しをもち、それらを創造するための課題を考え、実践することへの意欲が高まると考えています。道徳科においても、道徳的価値の自覚を深める過程で、自己の生き方についての考えを深めることは、よりよい自分や生き方への見通しをもち、それらを実現するための課題を考え、実践することへの道徳的実践意欲と態度が養われるという見方では同様です。したがって、集団、社会及び自然と直接関わる活動や体験を通して、道徳的諸価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め、その問題解決に至る思考の流れを本研究の「想像」することとして捉え、想像することで道徳的実践意欲と態度がより育まれると考えました。

2年生では、「学校わくわく大作戦」という未来そうそう科の単元の中に「想像」の時間として道徳の時間を位置づけて「B礼儀」の道徳的価値をねらいとする授業をしました。学校をわくわくする場所にするために開催したイベントの振り返り後に設定した授業でした。振り返りで挙げた課題を解決するために、自作資料を通して、相手のことを親身に思いやり、真心をこめて接することの大切さについて考えました。授業後半では、「来てくれた人が動きやすい案内板を作る。」「いい気分になるように笑顔であいさつしよう。」など、次の活動へつながる見通しをもつことができました。さらに、その後の未来そうそう科の時間ではそれを実践する姿が見られました。

